

滑川市早月加積地区 2015年4月26日

早月加積の現状知って 滑川「明日の早月 を考える会」が冊子作成



滑川市早月加積地区の住民有志でつくるグループ「明日の早月を考える会」が、地区の現状をまとめた冊子「早月のしおり」を作った。グラフや写真を使い、高齢化の進展や農家の減少、市内随一の工場地帯であることなどを分かりやすく紹介。地区の全世帯に配った。「まず現状を知ってもらい、地域の将来の発展につなげたい」としている。

グループは2012年、住民自らの手で地域を活性化しようと結成。メンバーは企業OBや元教員、寺の住職など多彩で、元県議の八倉巻忠夫さん（80）が代表を務めている。歴史や福祉、安全など各分野に詳しいメンバーが中心となり、昨年夏から約9カ月かけて調査執筆した。

冊子はカラーで26ページ。14年度時点で948世帯3087人が暮らし、60年前に比べ人口は1・1倍、世帯は2倍に増えたことを紹介。一方、国や県より速いペースで高齢者の比率が上がり、65歳以上が27%を占めることや、農家人口が05年から10年にかけて、903人から419人に減ったことも指摘している。

急流の早月川と闘い、豊かな田園地帯を築いた先人の歴史や、現在の「ものづくりのまち滑川」を支える数多くの事業所も紹介。近年の豪雨で水があふれ、改善が必要な用排水路なども記した。

今後、シンポジウムを開くなど冊子を活動に活用する考え。八倉巻さんは「人口減少や地域コミュニティの希薄化、防災対策など課題は多いが、現状を検証し、活性化策を考えたい」と話している。